

(中期財政見通しから見る) 添田町財政の 課題 と 対策

(これまで) 人口減・高齢化は進行しているものの貯金は増加するなど**財政は健全な状態**ですが、借入金が増加

- 貯金(財政調整基金) … 平成26年度 35億円 → 令和4年度 41億円 (+6億円) → 令和6年度 41億円 (±0億円)(見込)
- 借入金(地方債) … 平成25年度 76億円 → 令和4年度 64億円 (△12億円) → 令和6年度 112億円 (+48億円)(見込)

(現在・将来の課題) 施設の老朽化や借入金の増加により将来に向けて財政上の**課題**があります

(現在の課題)

- 町税などの自主財源が少ない。固定収入(税収+国からの交付税)だけでは、毎年必要となる「基礎的な町の運営費」しか賄えない。
→ 家計に例えると「自分で稼ぐ給料だけでは生活費でぎりぎり。趣味・嗜好へ回す金銭的な余裕がない。」状況

(将来の課題)

- 人口減・高齢化 → **税収**や国からの**交付税**が**減少**(収入の減)
- 公共施設の老朽化 → 物価高騰も影響し、維持管理費の増加(支出の増)
- (R5~R6)大型事業の財源として**借入金**が増加 → (R7以降)**返済額**が増加 → 他の支出予算を圧迫

(これから) 「課題」に対する取り組みを行わない場合、人口減・高齢化の進行とあわせて財政状況は**厳しくなる見込み**です

- 将来の借入金 → 借入金現在高の増加に伴い、毎年の返還額も増加する見込み(学校施設整備など計画的な大型事業の影響)
- 将来の貯金 → 増加した借入金返済をまかなうため、貯金を取り崩さざるを得なくなり、貯金残高は減少する見込み

添田町が「**住み続けたいまち**」であるために健全な財政状況の維持に取り組みます

- 子どもたちの世代に負担を残さないために → 借入金返済額より毎年の借入額を少なくし、借入金を減らしていきます
- 町財政に影響のある新たな事業を行うときは → 将来の町民に遺す財産と、それによって負うことになる負債のそれぞれについて、
将来の町民が望むものか、また健全な財政状況を将来の町民へ引き継げるか
という視点を持って、厳格に審査します